

## 2年B組英語科指導案

指導者 柳瀬 昭夫

1 日 時 平成21年11月4日（水） 第4校時 11：30～12：20

2 単元名 Unit 5 A Park or a Parking Area? (NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2)

- 3 単元の目標
- ◎身近な「地域の問題」について、その「事実」や「意見」を教科書本文から読み取ることができる。  
(理解)
  - ◎if, when, becauseなどの接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。  
(言語)
  - 新聞記事を読んで、それを参考にして簡単な記事を書くことができる。(表現)
  - 投書の意見を参考にして、積極的に自分の意見を述べようとすることができる。  
(関心・意欲・態度)

4 本単元における生徒の実態と単元構想

(1) 研修テーマに迫る手だて

本単元では、if, when, becauseなどの従属接続詞が言語材料として扱われている。これによって、文のメインとなる主節と主節に説明を加える(主節をサポートする)従属節をつなげ、理由や条件、時などを詳しく説明することができる。

しかし、教育課程部会「これまでの審議のまとめ」(平成19年11月)で、現行の英語教育を見直した結果として、『中学校・高等学校を通じて、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力が十分身に付いていない、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない状況なども見られる。』などといった課題であげられているように、本校の2年生の生徒たちの中にも、単文においてさえ、マクロストラクチャーを体得できず、日本語を前から逐語訳するよう英文を構成してしまう生徒がいる。本単元で扱う文章は複文であるため、少なくとも単文レベルでの語順は正しく表現できることが求められる。また、逐語訳をしてしまう生徒の場合、例えば、People complained when a bike fell on Kumi. のような文を「人々が不平を言った時、自転車が久美の上に倒れた。」のように理解してしまう。

そこで、まずは逐語訳しても日本語と意味が変わらないifについて導入する。そして、ifを用いて主節と従属節についての概念(言葉を教えるわけではない)が生徒の中で理解できたところで、従属節を前に置いた形のwhenを導入していく。その後、従属節を前に置いた形のbecauseを導入し、最後に主節を前に置き換えることができることを理解させていく。こうすることで、各接続詞ごとに表し方が違うのではないかと生徒が誤解することがなくなると考える。

また、有益な表現が多く含まれた生の言語データの集まりである教科書の扱い方を、以下の2点に配慮して活用していくことで、自分の言いたいことが複文で表せるような場合、教科書の表現を参考にして自分の言葉で言えるようになってくるのではないかと考える。

①言語習得の過程(音→文字→語句→文)を大切にしながら本文を扱うことで、本文を表す絵を見ただけで、本文の reproduction(再生・再話)ができるようにする。これによって、マクロストラクチャーを体得させる。

②教科書本文を理解したところで学習を終わらせず、教科書の内容を実際の世の中で起こっている内容に発展させ、creativeに表現させることで、基本文を発展した形で表現する機会を保証する。

具体的には、教科書本文で示されている「公園の維持か、新しい駐輪場か」を「(沖縄、辺野古に)新しい基地か、それとも美しい海か」に置き換え、グループで英字新聞を作成する活動をおこなっていく。この活動により、本研修で目指す、「じっくり考え表現できる子」の具体的な姿として示されている、「適切な方法や言葉を選び、自分の考えや意図を伝える」ことができるための素地を作ることができるのでないかと考える。

(2) 本単元における生徒の実態と願う姿

Tさんは、9月の定期テストにおける自由英作文(夏休みにあなたがしたこと)において、6点満点中0点という結果であった。これは、上記のように単文におけるマクロストラクチャーを体得できていないからである。しかし、授業に対する取組は前向きで、Unit3の教科書理解後の発展表現学習では、日本で流行していることとしてeco carについて説明する文章を書くなど、日本語で思いついで難解な文章でなく、自分が使える既知の表現から自分の言いたいことを述べようとする姿勢は身に

ついている。彼にとって必要なものは、文章を構成するときに参考となる正しい英文である。そこで、英字新聞作成の場面では、あまり文法に注意を向けなくとも語彙さえわかれば文章が書けるように、教科書本文の再話をおこなおうと考える。また、彼はグループ活動でも比較的発言が多い。わからぬことに対する不理解表明も仲間とのやりとりの中できちんとできるので、グループで相互に支援しながら表現できるようになることを期待している。

## 5 指導計画(8時間扱い)

時数	目標および活動内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「もしも～だったら」に続く説明を付け足していく活動を通して、if を含む文を正しく相手に伝える。(表現)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による口頭での導入を聞いて、条件を考える listening 活動</li> <li>・友達が書いた条件文に、続きをなる説明を付け足していく writing 活動</li> </ul> </li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ I think を用いて、友達が描いた絵が何を表しているか答える。(表現)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を用いた伝言ゲームで描かれているものが何か伝える speaking 活動</li> </ul> </li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ when を用いて、絵にあるものを「～の時に使う」という表現で説明し、相手に予想させる。(表現)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による口頭での導入を聞く listening 活動</li> <li>・絵にあるものを、「～の時に使う」を用いて相手に説明する speaking 活動</li> </ul> </li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ because を用いて、マンガを貸すことができない理由などについて相手に説明する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>(表現)</li> <li>・教師による口頭での導入を聞く listening 活動</li> <li>・マンガを貸せない、手伝いができないなど、日常にある断りの表現を考えて伝える speaking 活動</li> </ul> </li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○由香から届いたファックスから、久美に何が起こったか読み取る。(理解)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクチャーカードと教師の口頭での導入をもとに、本文の概要をつかむ listening 活動</li> <li>・教科書を閉じ、本文を再話する speaking 活動</li> </ul> </li> </ul>
6 ( 本 時 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「新しい基地か、美しい海か」についての英字新聞作りの活動を通して、教科書本文を参考にしながら記事を作成する。(表現)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクチャーカードと教師の口頭での導入をもとに、本文の概要をつかむ listening 活動</li> <li>・教科書を閉じ、本文を再話する speaking 活動</li> <li>・「新しい基地か、美しい海か」について、教科書本文を参考に英字新聞を作成する writing 活動</li> </ul> </li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞の投書欄に載せられた意見が、市の決定に対して賛成か反対か読み取る。(理解)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクチャーカードと教師の口頭での導入をもとに、本文の概要をつかむ listening 活動</li> <li>・教科書を閉じ、本文を再話する speaking 活動</li> <li>・本文の不明瞭な部分について質問を英文で書く writing 活動</li> </ul> </li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○投書を参考に、市の決定に賛成または反対する意見を表現する。(表現)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園を維持すべきか、駐輪場を作るべきか考え、教科書の文章を元に意見を書く writing 活動</li> </ul> </li> </ul>

## 6 本時の授業

### (1) 本時の目標

- ・「新しい基地か、美しい海か」についての英字新聞作りの活動を通して、教科書本文を参考にしながら記事を作成する。(表現)

### (2) 着目生徒について

授業ではまず、教科書本文を口頭で導入する。生徒は教科書を閉じたままにさせておき、黒板の picture card と key word をもとに、概略をつかませる。その際、分かりにくい表現や文章は、paraphrase して理解を図る。教師による導入の後、口頭で内容に関するQ&Aを行う。質問は、まずは日本語で概略を問い合わせ、続いて英語によるQ&Aをおこなう。Tさんは、質問に対して指名によって答えることに抵抗感を持っている。そこで、Qに対する答えを全体で確認した後、列全体を指名する形で答えさせ、少しずつ本文の repeat を行う必要があると考える。概要をつかませながら徐々に本文の読みを練習した後、flash card で新出語(句)について確認する。ここで初めて、文字による情報を提示することになるので、音声と文字のつながりを意識させて練習を行う。新出語については全員1回は読ませるようにする。Tさんが、他の人の発話を参考にできるように最初に廊下側の生徒から順番に指名して発話練習をおこなうようにしていきたい。次に、一文ずつの repeat をおこなっていく。長い文章では、一度に repeat させることは困難なので、backward 方式で徐々に練習をしていく必要がある。例えば、本文にある基本文でもある

People complained when a bike fell on a little girl near the station.は、

①near the station, ②a little girl near the station, ③a bike fell on a little girl near the station …などのように、文末に少しずつ英文を付け足していく形で練習をおこなって、表現できるようにしていく。Tさんは、自信がなかつたり練習が不十分なとき、表情で表してくれることが多いので、生徒の様子をよく見ながら、必要な練習をおこなっていきたい。

十分に内容に関する理解ができるから、教科書を開本し、chorus reading をおこなう。そして、本文を一文ずつ覚えてから、前を見て発話する read and look up を行う。この時、意味のまとまりを考えながら、十分な声量で発話するよう指示し、読むときには教科書を見ないようにさせる。その後で individual reading を行う。この段階で、Tさんがきちんと本文 reading できていないようであれば、練習が不十分であると判断し、再度 chorus reading をおこなう。

その後で、再び教科書を開本して response reading を行う。これは、教師の音読が休止したら、その続きを思い出して文末まで言う活動である。

続いて、本文のストーリーを自分の言葉で表現していく、再話を行う。暗唱ではないので、本文では代名詞で書かれていたものを元の名詞で説明してもよい。ヒントがないとストーリーの流れを思い出すことができないので、黒板には、picture card と key word を残しておき、それらを見て再話するようにさせる。これにより、教科書本文の音読を通して取り入れられた語彙や構文などの知識を、使える知識として定着させていくことを図っていく。Tさんの隣のAさんは、再話できるまで比較的短時間でたどり着くことができるので、自分が再話できる自信が持てたところで、ペアの練習をサポートするように全体に指示していきたい。ある程度再話できる自信がもてたら、隣の人にストーリーを説明するようにする。自分の言葉で伝え、分かつてもらえた時の達成感を味わわせたい。

最後に、「新しい基地か、美しい海か」についての英字新聞作りにグループで取り組ませるが、語彙については各自の辞書でフォローさせ、文章をどう作成していったらよいかを互いに確認させながら、取り組ませていきたい。最後には、再話で増やした自分たちの表現力を活用して、とても自分たちでは表現できることは不可能であると思われた記事作りが完成でき、達成感を感じることができるとよいと考える。

(3) 本時の展開

段階	Learning Activity	学習活動	○支援☆着目生徒について ■評価
つ ぐ る	1 Greetings & Small Talk	<b>Active Listening</b> ○教師の small talk に対して質問を投げかける。質問できたグループから着席する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が興味をもてる内容を準備する。</li> <li>・質問に関連して話を発展させる。</li> </ul>
	2 Confirmation of Learing Task	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           沖縄基地問題についての英字新聞を作ろう         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           何を参考にして、記事を作成したらよいのだろうか。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのままでは到底できそうもない感じるはずなので、今日の学習の流れを示しておく。</li> </ul>
	3 Oral Practice & Understanding the content	<b>Presentation of the Textbook &amp; Mim-Mem</b> ○教科書を閉じて、黒板の picture card と key word をもとに本文の内容を説明する。 ○CD で本文の listening を行う。 ○一文ずつ本文の repeat を行う。  <b>Check of Comprehension(Q&amp;A)</b> ○教科書を閉じたまま、本文の概要に関する Q&A を行う。 ○flash card で新出語(句)を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ new words は、カードで意味を確認していく。</li> <li>○分かりにくい文章は、言い換えをして理解を図る。</li> <li>○長くて言いにくい文は backward reading で行う。</li> <li>・Q&amp;A では、本文の表現を答えさせるような質問を用意しておく。</li> </ul>
	4 Reading	<b>Reading</b> ○chorus reading を行う。 ○一文ずつ本文を覚えてから前を見て発話する, read and look up を行う。 ○individual reading を行う。  <b>Reproduction</b> ○教科書を閉じたまま、本文を再話する。 ○ペアでお互いに再話し、相互評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・read and look up では、意味のまとまりを考え、十分な声量で発話するよう指示する。</li> <li>☆理解できているか表情を確認する。</li> <li>・response reading では教科書を閉本させておく。</li> <li>○ペア活動で、理解が不十分な場所を互いに支援させる。</li> </ul>
	5 Consolidation	<b>Let's Write Up!</b> ○沖縄県、辺野古の基地問題について、「新しい基地か、美しい海か」についての英字新聞をグループで作成する。 4人の役割：①タイトル②本文A～C(D) ○まずはそれぞれ取り組ませ、作成した文章について正しく表現できているか確認させる。 ○文章ができていることを確認して新聞を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要な未習語については、ワークシートの中に表しておく。</li> <li>☆教科書本文の表現から、置き換えるべき語を確認して表現につなげさせる。</li> <li>■教科書本文を参考にして、辺野古の基地問題について、英語で表現している。(表現)            &lt;ワークシートの記述&gt;</li> </ul>
	6 Closing Message	<b>Catching the Message</b> ○各グループの良かった点について確認する。 ○振り返り用紙に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で良かった点について伝える。</li> <li>・作成した新聞は色つけをさせ、掲示に利用していく。</li> </ul>